

1 学校経営の改革方針

学校教育目標

豊かな心とたくましい体をもち
主体的に判断し 進んで行動できる子どもの育成

I めざす養正小学校像

- <学校> ◇ 楽しく学び、いつも笑顔が絶えない学校
◇ 人との出会い、人とのつながりを大切にする学校
◇ 保護者・地域と協働し、信頼される学校
◇ 誰もが愛着と誇りを持つことができる学校
- <子ども> ◇ 一人一人の違いを個性として認め、仲間を大切にする子ども
◇ 失敗を恐れず、何事にも意欲を持って粘り強く努力する子ども
◇ 誰にでもやさしく接し、周りの人に感謝できる子ども
◇ 人のために役立つことを喜びとできる子ども
- <教職員> ◇ 人間味にあふれ、情熱を持って取り組む教職員
◇ 子どもの声に耳を傾け、子どもから学ぼうとする教職員
◇ 率直に子どもの姿を語り、子ども理解を深めようとする教職員
◇ 常に工夫・努力し、組織として厳しく高め合うことができる教職員

凡
事
徹
底

II 現状と課題

津市の中心部としての歴史と伝統に誇りを持つ地域で、本校を温かく支えていただく卒業生が多く居住している。しかし、郊外型大型店舗の出現など商業圏・生活圏の変遷とともに高齢化が進み児童数が少しずつ減少している。このような生活環境のもと、児童は、友だちや周囲の人に対して自然な思いやりを持って接している。しかしながら、自分に対する厳しさや粘り強く取り組む姿勢に欠ける面もあり、子どもたち一人一人の個性を大切にしながらも、学級・学校集団のなかで互いに鍛えあう取組を進めていくことにより、個々の「生きる力」を高めていく必要がある。また、本校の活力ある充実した学校教育を実現するには、学校・家庭・地域の連携・協力は不可欠であり、次年度も保護者や地域の人々の期待と信頼に応えるため、これまで築きあげてきた地域とともにある教育活動に、新たな風を吹き込みながら特色ある学校づくりを推進していく必要がある。

III 重点目標

- 「主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくり」を進めます。
- 確かな学力の向上をめざします。
- 西橋内中学校区小中一貫教育を推進し、その研究を深めます。
- 豊かな人権感覚を育むとともに、互いに助け合う仲間づくりを進めます。
- 危機管理についての職員の意識改革と能力の向上を図ります。
- 安全で安心な「開かれた学校」づくりを進めます。
- 学校組織のあり方を見直すとともに、働きやすい職場づくりを進めます。

IV 具体的な行動計画

1 「主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくり」を進めます

- ①指導主事や外部指導者を招聘し、「主体的・対話的で深い学び」や新学習指導要領についての共通理解を図ります。
- ②「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業実践を行います。

2 確かな学力の向上を図ります

- ①基礎学力の定着・向上を図るため「学習規律」の徹底を図り、また「アイビータイム」や学力向上支援学習会等の実践を進めます。
- ②家庭と協働して、「家庭学習の手引き」に基づく家庭学習の充実を進めます。
- ③朝の読書による読書の習慣化や魅力的な図書館づくり等により、児童の読書量を増

やす実践を進めます。

3 西橋内中学校区小中一貫教育を推進します

- ①「自ら学ぶ力」「ともに学ぶ力」の育成をめざした授業づくりについて研究を深めるとともに、小中一貫した家庭学習等の学力向上支援策等の実践を進めます。
- ②改訂版「家庭学習の基本カリキュラム」に沿って、家庭学習の啓発と充実に努めます。
- ③3校の児童生徒の実態の共有を図り、9年間のつながりを意識し、人権教育カリキュラムの実践をしていきます。
- ④生徒指導カリキュラムに基づいて具体的行動目標を設定し、実践を進めます。
- ⑤特別支援教育における指導計画やプロフィール表の統一により、より効果的な活用について研究を進めます。
- ⑥ふれあい清掃活動や人権フォーラムなど、多様な児童生徒間交流等を通して仲間づくりを進めます。
- ⑦外国語教育部会を立ち上げ、小学校英語活動から英語科への移行、中学校英語とのなめらかな接続について研究を進めます。

4 豊かな心・健やかな身体を育む教育を推進します

- ①互いに助け合う仲間づくりをめざし、豊かな人間性や社会性を育む人権学習を進めます。
- ②縦割り班活動を中心とした異年齢交流活動による仲間づくりを進めます。
- ③児童の学校や家庭における基本的かつ正しい生活態度の育成を進めます。
- ④特別な支援の必要な児童一人一人に対し、個に応じた支援を行うとともに、共生の視点を大切にした特別支援教育を進めます。
- ⑤「子どもの生活を語る会」等による情報共有と共通した指導方針のもと、だれもが安心して過ごせる学校づくりを進めます。また、「養正小学校いじめ防止基本方針」のもと、いじめを許さない学校づくりを進めます。
- ⑥体力・運動能力の向上をめざした健康づくりを進めるとともに、好き嫌いをしない給食指導など、健康増進に向けた食教育を進めます。

5 家庭・地域と協働して、安全で安心な「開かれた学校」づくりを推進します。

- ①地震・津波、火災、不審者侵入等の危機に対し、様々なケースを想定した「避難訓練」「引き渡し訓練」を実施し、防災教育を進めます。
- ②自然災害、学校事故、児童をめぐる事件等の危機に対し、職員の危機管理意識の向上を進めます。
- ③土曜授業・土曜活動を活かして子どもたちの教育環境を一層充実させるとともに、積極的に保護者・地域と連携を図り、信頼される学校づくりを進めます。
- ④学校・学年だよりの発行とホームページの更新等による活発な情報発信に努めるなど、開かれた学校づくりを進めます。
- ⑤定期的なアンケート調査や学校自己評価により、学校運営や組織の見直しを行うとともに、学校運営の改善を進めます。
- ⑥計画的かつ効率的な業務を進め、勤務時間の縮減を図るとともに、職員間のコミュニケーションを大切にし、健康かつ意欲的に働ける職場づくりを進めます。

2 学校自己評価の結果

1 「主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくり」を進めます

※基準評点 3.0

実践事項	自己評点
1 学びの充実をめざし、指導法の研究や活発な授業研究を行い、教職員の指導力を高めます。	3.1

【評価】

- 授業の中で、児童が考え、ペアやグループで対話し、学びを深めていく授業を心がけ授業研究を行った。様々な事情で授業に参加できない子については、校内で話し合ったり、専門家にアドバイスをいただいたりして、対策を講じてきた。
- 指導主事や外部講師も招き、授業づくりの指導、助言を仰ぐことができた。ただ漠然とした授業研究となったので、次年度は、より深い学びをめざして「課題づくり」に焦点を当てて研究を進めていきたい。

2 確かな学力の向上

実践事項	自己評点
1 基礎学力の定着・向上を図るため「学習の規律」の徹底を図り、また「アイビータイム」や学力向上支援学習会等の具体的な実践を進めます。	3.2
2 家庭と協働して、「家庭学習の手引き」に基づく家庭学習の充実を進めます。	3.1
3 朝の読書による読書の習慣化や魅力的な図書館づくり等により、児童の読書量を増やす実践を進めます。	3.2

【評価】

- 本年度の全国学力・学習状況調査の結果は、これまでの取組、授業づくりや放課後等の学力補充、朝のアイビータイムの充実、家庭学習強化等々により、教科とも全国平均を上回っている。外部講師からは、30人前後以下の母数ではあまり平均正答率の意味をなさない、中央値や偏差値等の値も見ながら分析するようという助言いただいた。平均正答率の結果だけでなく、生活習慣や得意・不得意分野の分析も行ったうえで、地道にこれまでの取組を継続することを確認した。
- 読書指導はある程度定着しているが、自宅での読書については、保護者アンケート結果から個人差が大きいことが伺える。図書ボランティアの協力を得て、学校だけでなく保護者への啓発も含めて進めていきたい。

3 西橋内中学校区小中一貫教育

※基準評点 3.0

実践事項	自己評点
1 教科カリキュラム・教科外カリキュラムの研究を進めるとともに、「自ら学ぶ力」「ともに学ぶ力」の育成をめざした授業づくりについて研究をすすめます。	3.1
2 小中一貫した家庭学習等の学力向上支援策等の実践をすすめます。	3.2
3 人権教育、特別支援教育をはじめ生徒指導、園児児童生徒間交流等を通して仲間づくりを進めます。	3.0

【評価】

- 小中一貫した家庭学習の取組（コツ勉、勉強時間）は、中学校区で定着してきていて、大きな力になっている。
- H30年度からの新教育課程移行期間を念頭に特別部会として英語部会をもつことになった。
- 中学校区の人権フォーラムでの話し合いについては、深まりにかけるところがあった。日頃より小さな事案もそのままにせず、子どもたちとともに考える、職員間で共通理解を図り、指導したり対処したりする姿勢を今後とも続けたい。

4 豊かな心・健やかな身体の成長

実践事項	自己評点
1 互いに助け合う仲間づくりをめざし、豊かな人間性や社会性を育む人権学習を進めます。	3.2
2 児童の学校や家庭における基本的かつ正しい生活態度の育成を進めます。	3.1
3 個別の指導計画を作成し、一人ひとりの個に応じた支援を行うとともに、共生の視点を大切に特別支援教育を進めます。	3.2
4 「子どもの生活を語る会」等による情報共有と共通した指導方針のもと、だれもが安心して過ごせる学校づくりを進めます。	3.2
5 「養正小学校いじめ防止基本方針」のもと、いじめを許さない学校づくりを進めます。	3.2
6 縦割り班活動を中心とした異年齢交流活動による仲間づくりを進めます。	3.2
7 体力・運動能力の向上をめざした健康づくりを進めます。	3.0
8 給食指導を中心に健康増進に向けた食教育を進めます。	3.1

【評価】

- 職員会議や研修の時間に、「子どもの生活を語る会」をもち、支援が必要な児童の情報共有し、全職員で支援できる体制づくりに努めた。
- 縦割班による異年齢交流や日常生活の中での年齢を超えた交流の活動などを通して、学年学級を越えた仲間づくりの場を設定した。
- 体育の授業の充実や縦割活動などを通して、さらに体力向上に努めたい。
- 仲間づくりについては、「互いに助け合う」ではなく、「互いに高まり合う仲間づくり」をめざしたい。次年度は、人権教育の目標とともに評価項目も変更したい。

5 家庭・地域と協働して、安全で安心な「開かれた学校づくり」

実践事項	自己評点
1 地震・津波、火災、不審者侵入を想定した「避難訓練」「引き渡し訓練」等の緊急時の対応や防災教育を進めます。	3.3
2 自然災害、学校事故、児童をめぐる事件等の危機に対し、職員の危機管理意識の向上を進めます。	3.0
3 積極的に保護者・地域と連携を図り、信頼される学校づくりを進めます。	3.2
4 学校・学年だよりの発行とホームページの更新等による活発な情報発信に努めるなど、開かれた学校づくりを進めます。	3.5
5 計画的かつ効率的な業務を勧め、勤務時間の縮減を図るとともに、職員間のコミュニケーションを大切にし、健康かつ意欲的に働ける職場づくりを進めます。	3.1
6 学校評価・学校経営品質等により組織機能の点検を行うとともに、学校運営の改善を進めます。	2.9

【評価】

- 避難・引き渡し訓練(6月)、不審者避難訓練(11月)、火災避難訓練(1月)、誘拐防止教室、交通安全教室(1年)、薬物乱用防止教室(6年)と、訓練等はしっかり行うことができた。次年度は地域と連携した訓練も行う予定である。
- ホームページの更新は教頭先生の努力でかなりの頻度で更新できた。
- 職員間のコミュニケーションは様々な面とれている。
- 6の項目については、「毎月の行事等の反省」が、学校運営の点検、改善につながって

いるので表記を改める

○2学期は、学校行事、地域行事等々が多く土日の出勤、出張が多かった。しかし、年間を通じて、体育振興会共催の体育大会やふれあい行事等、地域行事にも多くの子どもが参加し、保護者との連携を図る良い機会ともなっている。

3 学校関係者評価

① 学校運営委員会 平成30年2月27日(火)19:30~20:40

② 学校運営委員

○ 学校評議員	廣盛 孝子	地域有識者
	高木 将夫	養正地区体育振興会
	杉本 賢一	自営業(新玉亭会長)
	今野 明子	元PTA会長
	田中 政信	養正小学校PTA会長

○ 地域連携

コーディネーター 松林 高弘 地域有識者

③ 総括

○全国学力・学習状況調査の結果について数値を公表した。また、学校自己評価や保護者アンケートの結果についても公表・説明を行い、本校の教育活動について総括を行っていただいた。本校の教育活動に対して、一定の評価をいただき、次年度以降も取組を継続するよう要望された。

○最近の学習指導や、新学習指導要領の方向性について質問があり、知識を活用する力が求められていること、H30年度から小学校では特別の教科道徳となり、今教科書が支給され評価が必要となること、英語活動から英語教育となり、「話す」「聞く」だけではなく、中学校の英語科を意識して、「読む」「書く」活動も増えていくことなどを説明した。

○子どもたちが所有しているスマホ等のSNSによる問題が指摘され、本校においても、また中学校区においても引き続き指導を継続するよう要望された。さらに低年齢化の傾向があり、入学説明時にも保護者に啓発するようご助言いただいた。

○交通安全指導やあいさつ指導についても、日常的に指導する必要があるとのご意見をいただいた。

○学校教職員の働きすぎを軽減できるとよいという配慮もいただいた。